

— 今月の投書 —

# 身勝手な自転車運転 に罰則強化

皆さんが社会に無関心になつていくのは十分に分かっています。しかし最近目につく非常識

な出来事で放置できないのが身勝手な自転車運転です。

幕末期、初めて日本に持ち込



自転車事故の推移（東京都内）



【都内】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	前年比
自転車事故 (a)+(b)	12,865	13,094	11,443	13,332	15,276	15,926	+650
1 当件数 (a)	3,271	4,320	4,133	5,494	7,344	7,927	+583
2 当件数 (b)	9,594	8,774	7,310	7,838	7,932	7,999	+67
自転車相対件数(c)	1,094	1,220	1,036	1,297	1,393	1,401	+8
関与事故件数(a)+(b)-(c)	11,771	11,874	10,407	12,035	13,883	14,525	+642
関与率	36.1%	39.0%	40.6%	43.6%	46.0%	46.3%	-

※ 自転車の関与事故件数は、自転車乗用者が第1又は第2当事者となった事故件数であり、自転車相互事故は1件として計上しています。

出典：警視庁（都内自転車の交通事故発生状況）

まれて以来、日本人にとって欠かさない交通手段として普及し、子供が初めて交通ルールを守るといふ社会性を身に付ける教育手段の一面を持ち合わせている「自転車」。しかしながら現在では、身勝手な悪質な運転者による事故が後を絶ちません。特に目に付くのが、スポーツタイプの自転車の右折車線

走行や、イヤホンやスマートフォンを使用しながらの運転です。東京都内における自転車事故の件数は、2023年に1万5926件と報告されていますが、これは前年の1万5276件から増加しており、全交通事故の約46.3%を占めています。

政府もやっとその重い腰を上げ、2024年5月17日に自転車の交通違反に交通違反切符（青切符）を交付する改正道路交通法が参議院本会議で採択が行われ可決・成立しました。

具体的には、信号無視、一時停止無視、歩道走行の禁止場所での走行などの違反行為だけでなく、113種類の違反行為に対して、警察官がその場で違反金を科すことができるようになりました。特に注目されるのは、イヤホン、スマートフォンなどを使用する「ながら運転」をはじめとした、注意力が低下し、重大事故の高まる行為など、時代背景を反映した違反行為がその対象になったことです。

しかし、2007年に発売さ

れた「iPhone」などのスマートフォン、2016年に発売された「AirPods」などのワイヤレスイヤホンの普及により、音楽を聞いたり動画を見たりすることが当たり前に行なわれていく中で、事故の抑止になるのかはまだ疑問です。

罰則強化だけではなく、インフラ整備、警察の取締り強化などの総合的な対策はもろろん、デバイスを発売するメーカーも、運転中はプレイヤーが作動しなくなる機能搭載を義務化することが必要だと考えます。さらに事故を起こしてしまった場合、「過失傷害罪」や、より悪質な運転で他人に危害を加えた場合「重過失傷害罪」という重大な罪が科せられるということも、地域社会や家庭において啓発していくことを必須としない限り、この問題は永遠に解決しないでしょう。

（田中佳介）